

日本代表 vs ニュージーランド代表 雑感

2013/11/02 14:00 より東京秩父宮ラグビー場で行われた日本代表 vs ニュージーランド代表（オールブラックス）のゲームをテレビ観戦した。

ニュージーランドには若さはありませんでしたが、これまで来たチームの様な凄さは見られませんでした。日本はいつものように最初の quarter (1/4) 20 分の頑張りだけで残り three-quarter (3/4) の勝負を決めようという原則的な意識が見られませんでした。またゲーム中のミスはあり得ることで、相手に常に pressure をかけてミスを誘うことは four principles の一つとして基本中の基本であるため、取り上げて言うべきことではありません。ゲーム後のインタビューで広瀬キャプテンが今後について「小さいことをコツコツやっていく」と言っていました。良いことだと思いますが同床異夢ということもありますから、私が思っている「小さいこと」を言っておきます。ラグビーで一番小さいプレーはラグビーの原型活動であるボールを持って走るということです。速く走ることに加えて side step, swerve, dodging, change of pace と hand off 等の技術を身につけることです。これらはスピーディーと敏捷性という勝つために不可欠な要素につながるものです。しかも二つの要素は日本人の特性に合ったものです。小さい身体でボールを生かし続けるために絶対必要なことです。ruck や maul の approach になるコンタクトの仕方がそれらの勝敗を決めるのです。単調に一直線に走っているだけでは防御を突破できません。特に backs のプレーヤーは絶対条件です。タラレバは止めて positive に Be ambitious!!

2013/11/06
西川 義行